

クラウン令和 8 年度課題詩 (2)

<p>独柳 (杜牧) 煙を含む一株の柳 地を払い風に揺ぐこと久し 佳人折るに忍びず 悵望して緘手を回す</p>	<p>日本刀を詠ず (徳川光圀) 蒼竜猶お未だ雲霄に昇らず 潜んで神州劍客の腰に在り 髯虜塵にせんと欲す策無きに非ず 容易に汚す勿れ日本刀</p>	<p>春の花を尋ぬ (菅三品) 五嶺蒼々として雲往来す 但憐れむ大庾万株の梅 誰か言う春色東より到ると 露暖かにして南枝花始めて開く</p>	<p>子規を聞く (正岡子規) 一声孤月の下 血に啼いて聞くに堪えず 半夜空しく枕を敬つ 古郷万里の雲</p>	<p>無題 (阿倍仲麻呂) 義を慕う名空しく在り 忠を輸すも孝全たからず 恩に報ゆる幾日も無し 国に帰るは定めて何れの年ぞ</p>	<p>芳野懐古 (藤井竹外) 古陵の松柏天鷹に吼ゆ 山寺春を尋ねれば春寂寥 眉雪の老僧時に帯くことを輟め 落花深き処南朝を説く</p>
<p>あさみどり (明治天皇) あさみどり澄みわたりたる大空の 広きをおのが心とがな あさみどり澄みわたりたる大空の 広きをおのが心とがな</p>	<p>くれないの (正岡子規) くれないの二尺伸びたる薔薇の芽の 針やわらかに春雨のふる くれないの二尺伸びたる薔薇の芽の 針やわらかに春雨のふる</p>	<p>東風吹かば (菅原道真) 東風吹かば匂いおこせよ梅の花 主なしとて春な忘れそ 東風吹かば匂いおこせよ梅の花 主なしとて春な忘れそ</p>	<p>白玉の (若山牧水) 白玉の齒に沁みとおる秋の夜の 酒は静かに飲むべかりけり 酒は静かに飲むべかりけり 酒は静かに飲むべかりけり</p>	<p>十億の (暁鳥 敏) 十億の人に十億の母あらむも 我が母に優る母ありなむや 十億の人に十億の母あらむも 我が母に優る母ありなむや</p>	<p>たわむれに (石川啄木) たわむれに母を背負いてそのあまり 軽きに泣きて 三歩 あゆまず たわむれに母を背負いてそのあまり 軽きに泣きて 三歩 あゆまず</p>
<p>春の野に (大伴家持) 春の野に霞たなびきうら悲し この夕影に鶯鳴くも 春の野に霞たなびきうら悲し この夕影に鶯鳴くも</p>	<p>晴れてよし (山岡鉄舟) 晴れてよし曇りてもよし富士の山 元の姿は変はらざりけり 晴れてよし曇りてもよし富士の山 元の姿は変はらざりけり</p>	<p>やわらかに (石川啄木) やわらかに柳青める北上の 岸辺目に見ゆ泣けとごとくに やわらかに 柳 青める 北上の 岸辺目に見ゆ泣けとごとくに</p>	<p>我が胸の (平野国臣) 我が胸の燃ゆる思いにくらぶれば 煙はうすし桜島山 我が胸の燃ゆる思いにくらぶれば 煙はうすし桜島山</p>		